



産業
振興

2024

南房総地域の物質的・文化的資源のさらなる活用への取り組み

実施者

- ＜教員＞** 千葉大学 design research institute 教授 植田 憲
 千葉大学 design research institute 助教 青木 宏展
 千葉大学 特任専門員 / 地域コーディネーター 阿部 厚司
＜学生＞ 千葉大学 融合理工学府 創成工学専攻 博士前期課程 1年 高原 弘祐
 千葉大学 工学部 総合工学科 デザインコース 4年 栗田 結帆, 仁木 俊平, 田村 隼, 細田 瑞希, 南 友基, 仙石 洋斗
＜協働パートナー＞
【行政】 館山ジビエセンター **【企業等】** ヤマナハウス, 合同会社アルコ
【個人】 ヤマナハウス南房総三芳のシェア里山 代表 永森 昌志, 合同会社アルコ 代表社員 沖 浩志,
 合同会社 DIEM 代表社員 大阪谷 未久, 陶芸家 西山 光太

1. 背景・目的

房総半島は海に囲まれていることに加え豊かな山野に恵まれている。一方でその豊かな自然を背景とした文化的・物質的資源は新たな価値を創出できるにも関わらず見逃されている現状がある。本ポスターでは、デザイン文化計画研究室が南房総市において取り組んだ物質的・文化的資源を活用する活動の2つを紹介する。

1) 「万祝の意匠を活用したクリアファイル制作」

万祝は千葉県の伝統的な漁師の晴れ着であり、本研究室では博物館に死蔵されていた万祝の図柄の型紙をスキャンし、そのページ（線分）データの活用を行ってきた。地域内の人々へ南房総市の万祝という文化的資源を認知してもらうために、本年度は万祝の図柄を用いたクリアファイルの制作を行なった。

2) 「廃棄される有害鳥獣の骨の活用にもつれた取り組み」

南房総市では猪や鹿などの有害鳥獣による農作物被害が深刻化しているのが現状である。館山ジビエセンターでは南房総市含めた周辺地域で捕獲された猪や鹿などを食品として有効利用しているが、食肉加工後に生じた骨のほとんどは廃棄されている。廃棄される骨を製品や体験として地域に還元することで、より持続的な獣害対策や地域振興に繋がると考えられる。骨の活用方法を導出するにあたって、南房総市周辺における有害鳥獣関連の資源を活用している方々へ調査を行い、同時に骨の加工を通じた試作を行なった。

2. 実施内容

(1) 実施期間

- 1) 万祝の意匠を活用したクリアファイル制作 (10/10 ~ 12/27)
- 2) 廃棄される有害鳥獣の骨の活用にもつれた取り組み (6/1, 6/2) 計2回 (自宅などでの作業を除く)

(2) 活動内容

1) 「万祝の意匠を活用したクリアファイル制作」

本年度は取得したデータを用いてその図柄を再構成しクリアファイルの制作を行なった。当該の図柄を利用し、実際の万祝を参考に図柄の再構成を行なった。完成したデータは印刷業者に依頼、350部を印刷した(図1)。また、本品の一部は成人の日の式典において記念品として配布がなされた。なお、クリアファイル上には本年のみの限定品としての証左として「令和七年」の文言を付している。

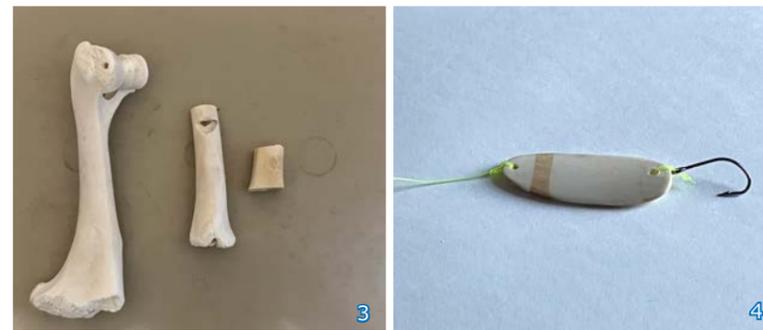
2) 「廃棄される有害鳥獣の骨の活用にもつれた取り組み」

① 6/1 陶芸家 西山 光太さんへのインタビュー

西山さんは鴨川在住の陶芸家で、現在合同会社アルコの沖 浩志さんとともに猪の骨を用いた陶器の試作を行っている。試行錯誤の様子や、鉛を含まない骨を使用する必要があるため部位ごとの選定が必要であることなど活動においての問題や現状などを伺った。

② 6/2 伝右衛門製作所の北条ビーチマーケットにおけるへの出店補助

伝右衛門製作所は有害鳥獣の皮などを用いたメモ帳のオーダーメイドを北条ビーチマーケットへ出店しており、当日は設営



1 万祝クリアファイルの印刷データ
 2 北条ビーチマーケット 伝右衛門製作所の出店の様子
 3 猪の骨による試作『ホイッスル』
 4 猪の骨による試作『スプーンルアー』

域学協働の工夫！

- ★型紙のデータを元として万祝の意匠を再構成する取り組みを通して、デザイナーとして文化の「保存」とデザインによる「創出」の両立を経験した。
- ★実際に配布される物品のデザインを通じて、「万祝」に関する文化的資源の地域への還元を行なった。
- ★有害鳥獣の肉、骨、皮を利用するそれぞれの活動者から話を聞き、共同で作業を行うことを通じて地域における役割やその効果への理解を深めるとともに新たな活動につながる知見を得た。

や運営などの補助を行った(図2)。また、有害鳥獣由来の製品や地域におけるオーダーメイド型のものづくり拠点の受け入れられ方について、来場者を通じて知ることができた。また、同じく出店していた合同会社アルコの沖さんから猪の骨を分けていただいた。

③ 猪の骨の加工、および試作

骨を素材とした道具・工芸品の文献調査と並行して、6/2の北条ビーチマーケットにおいて受け取った骨の処理と試作を行なった。煮沸による除肉とパイプ洗浄剤による洗浄・漂白のうち、空洞の構造を生かしたホイッスルと光沢を生かしたスプーンルアーの試作を行なった(図3、図4)。

2) 「廃棄される有害鳥獣の骨の活用にもつれた取り組み」

イベントの補助を通して、南房総市の資源やその活用を地域内外へ紹介する取り組みの推進に関わることができた。また、今後有害鳥獣の食肉処理後の残骨の地域への効果的な還元方法を導出する上での知見を得た。

4. 今後の展開

1) 「万祝の意匠を活用したクリアファイル制作」

本年度はクリアファイルの制作を行なったが、さらに他の物品への展開が考えられる。より魅力的かつ、効果的な周知の方法となるような物品や体験のデザインを行ってきたい。

2) 「廃棄される有害鳥獣の骨の活用にもつれた取り組み」

本年度の活動で得た知見をもとに、試作とフィードバックを通じて資源を地域へと還元していけるような具体的な製品や体験を創出していく。

3. 成果と課題

1) 「万祝の意匠を活用したクリアファイル制作」

文化的資源を活用した製品を通じて地域へ還元を行なうとともに、制作にあたって地域の文化的資源を元にしたデザイン活動を経験することができた。

*表彰・マスコミ掲載など
 ・特になし